



学校だより

令和6年度 5月号
令和6年 5月2日
さいたま市立大谷口中学校

【学校教育目標】 かしこく 美しく たくましく

自分も他の人も大切にできる言葉かけ



校長 小林 正樹

新緑が目眩しい季節となり、新年度が始まって早1ヶ月が経ちました。4月27日の学校公開では、多くの保護者の皆様に参加していただきました。ありがとうございました。生徒たちは、新しい環境の中、新学期の目標を掲げて、学校生活を意欲的に過ごしています。

私は、人と言葉を交わす行為が大切であると考えています。明るく元気なあいさつは、はたから見ても気持ちの良いものです。一方、あいさつをしたのに相手から返事がないと、がっかりしたり、寂しい気持ちになったりします。私たちは、日々、周囲の人たちとの間で交わされる言葉の影響を受けています。とりわけ相手に対する温かい思いが込められた言葉は、受け取る側の心を温め、なごませるだけでなく、お互いの人間関係を豊かなものにしていきます。例えば、私たちが「ありがとう」という言葉をかけられたときにうれしく思うのは、そこに「あなたがしてくれたことをきちんと認識し、感謝しています」という相手の心を感じ取るからです。こちらのことを気づかう言葉をかけられた場合も同様です。「あなたのことを大切な存在として認識し、あなたの幸せを願っています」といった思いやりを感じるからこそ喜びを感じ、心が温まるのであり、その言葉はお互いの心の絆を強めていく力を持つのです。誰もが冷たく寂しい言葉より、温かく思いやりのある言葉を求めています。まず、相手にしっかりと心に向けて、安心や喜びをもたらすことができるような言葉を、自分から発していくことが大切と考えています。様々な場面で、自己肯定感を高め、自分や他者の命や人権を大切にできる5月になるとことを願っています。

中学生は、自分が自分であること。さらに他者や社会から認められているという感覚を確立する時期です。様々な場面で理想と現実のはざまに葛藤する、大人になるために大切な時期です。生徒は中学校3年間を通して、自分自身について理解し、自分が集団に所属していることや認められている感覚を得ていきます。同時に他者についての理解も進み、自分を客観視できるようになっていきます。ただ、自分を表現する言葉や行動が未熟なので、友達と同じということを基準に人間関係が築かれる傾向があります。中学生は共通のモノや行動を共にすることで絆が強くなる傾向があるようです。逆に同じでないことを見つけて簡単に仲間外れなどしてしまうのもこの時期です。排除されることを嫌い、さらに同じであることへの価値感が高まり、頭では自分の思いや集団の中でのべき言動などを理解しても、それを言葉や行動に移すことが難しく、いじめにつながることもあります。一方、他者理解が進む中で、その人のよさに気づき認めることができる生徒も増えていきますので、家庭と学校が共通認識をもっていきたいものです。

さいたま市民の日

5月1日は、2001年にさいたま市が誕生した日です。

生徒、保護者、地域みなさんが、郷土である本市の歴史や文化に親しみ、まちづくりに自ら参画する意識を高め、魅力ある本市を将来にわたって創っていくことを期する日となっています。大谷口中学校でも、皆さんとともに未来へ希望あふれる新たな時代に向けた大きな一歩を創っていきましょう。

【お知らせ】

欠席・遅刻等の連絡方法について

お子様の欠席・遅刻等の連絡につきましては、Formsにて連絡をお願いいたします。各学年の欠席・連絡FormsのQRコードは、大谷口中学校のホームページにて記載されていますので、ご確認ください。